








地域の実情を把握する方策について

山形県酒田市

酒田市の取組み

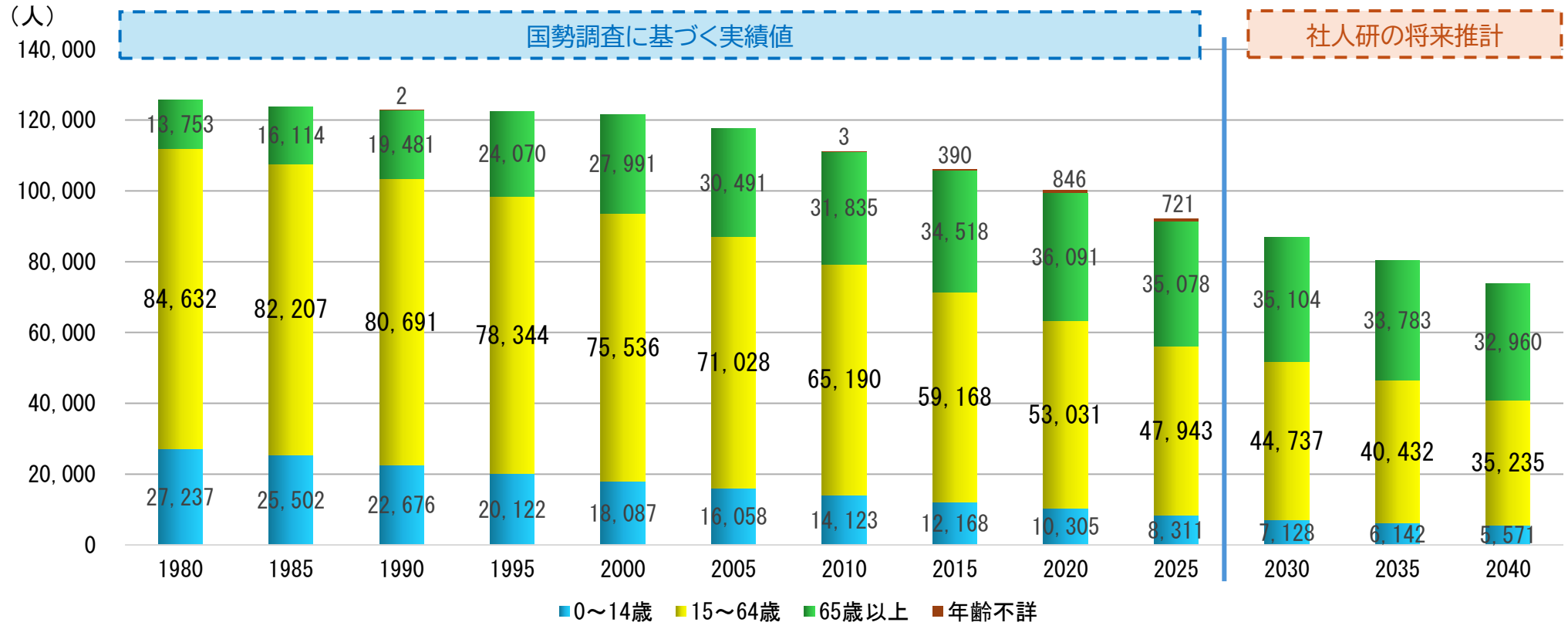




酒田市の現状及び課題

1 人口及び生産年齢人口の減少

・人口は減少傾向
・生産年齢人口は1980年に比べ40%以上減少



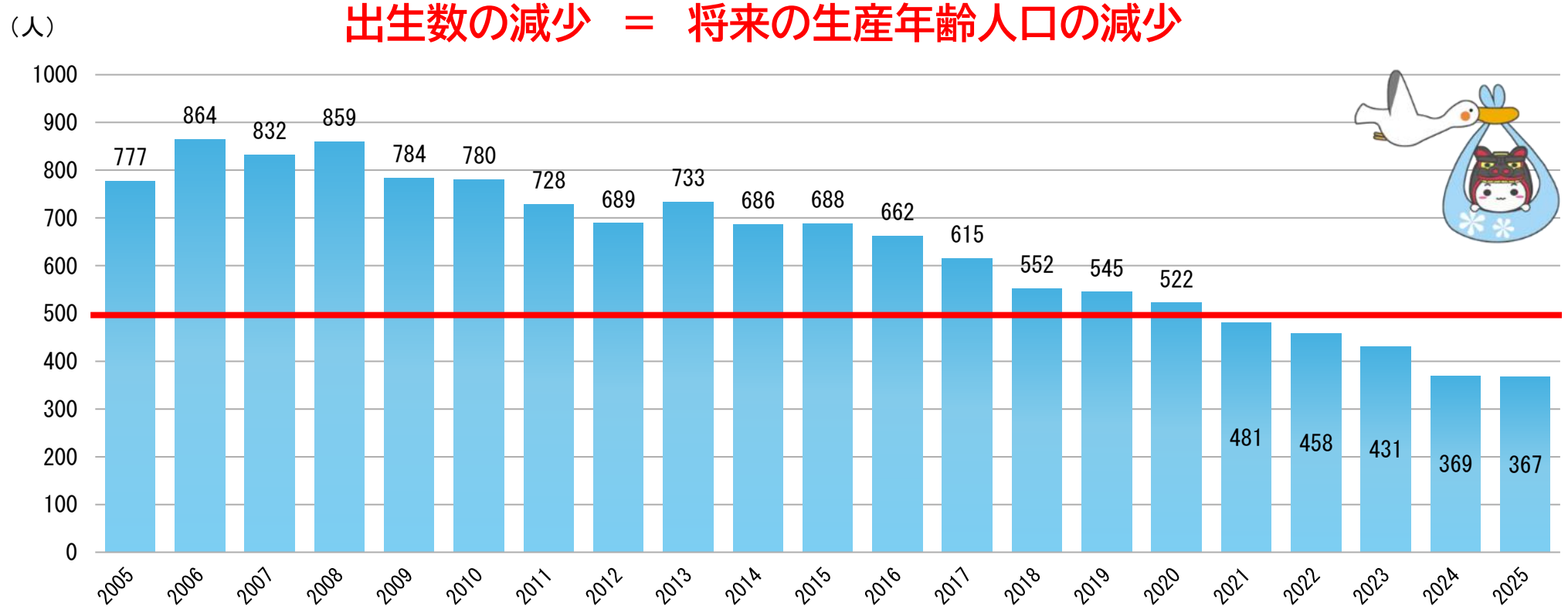
（出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所推計）

酒田市の現状及び課題

2 出生数の減少

・出生数は減少傾向
・2021年(令和3年)以降、500人を下回っている

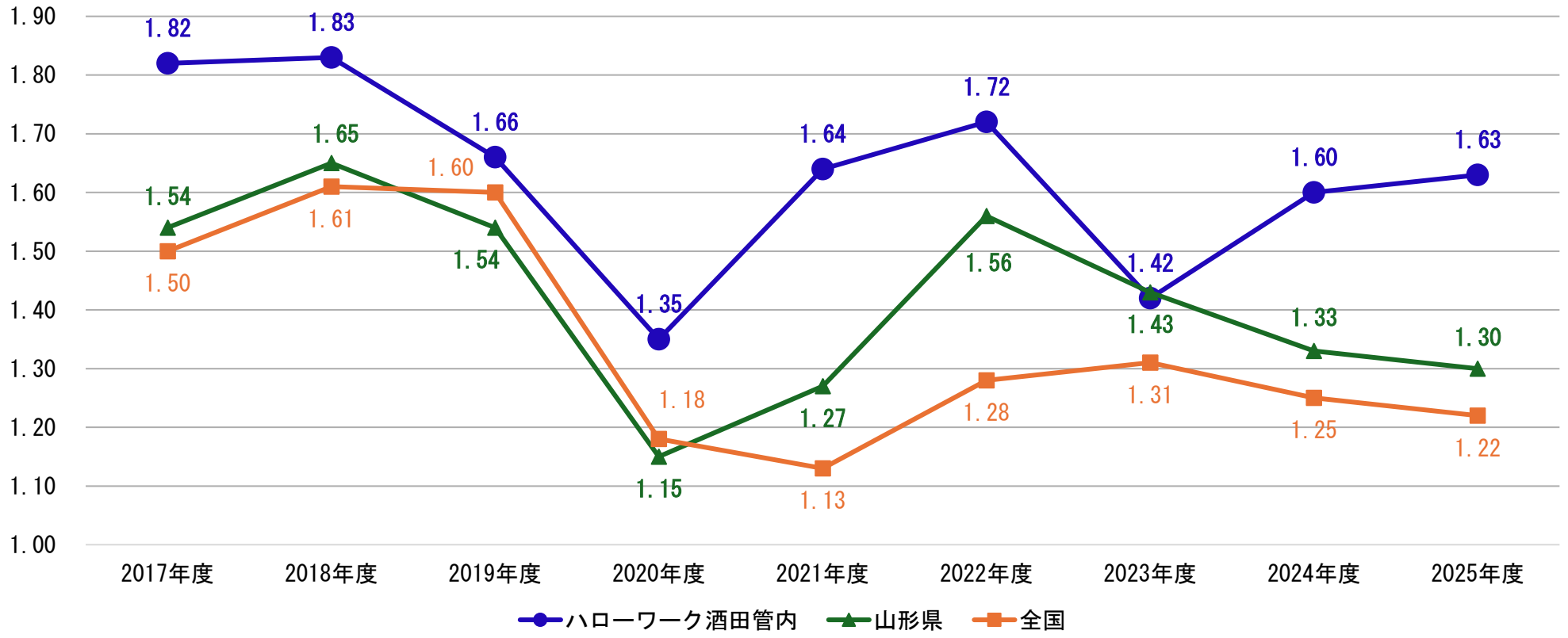
出生数の減少　＝　将来の生産年齢人口の減少



酒田市の現状及び課題

3 労働力の不足

・有効求人倍率は山形県及び全国を大きく上回っている
・労働力が不足している状況

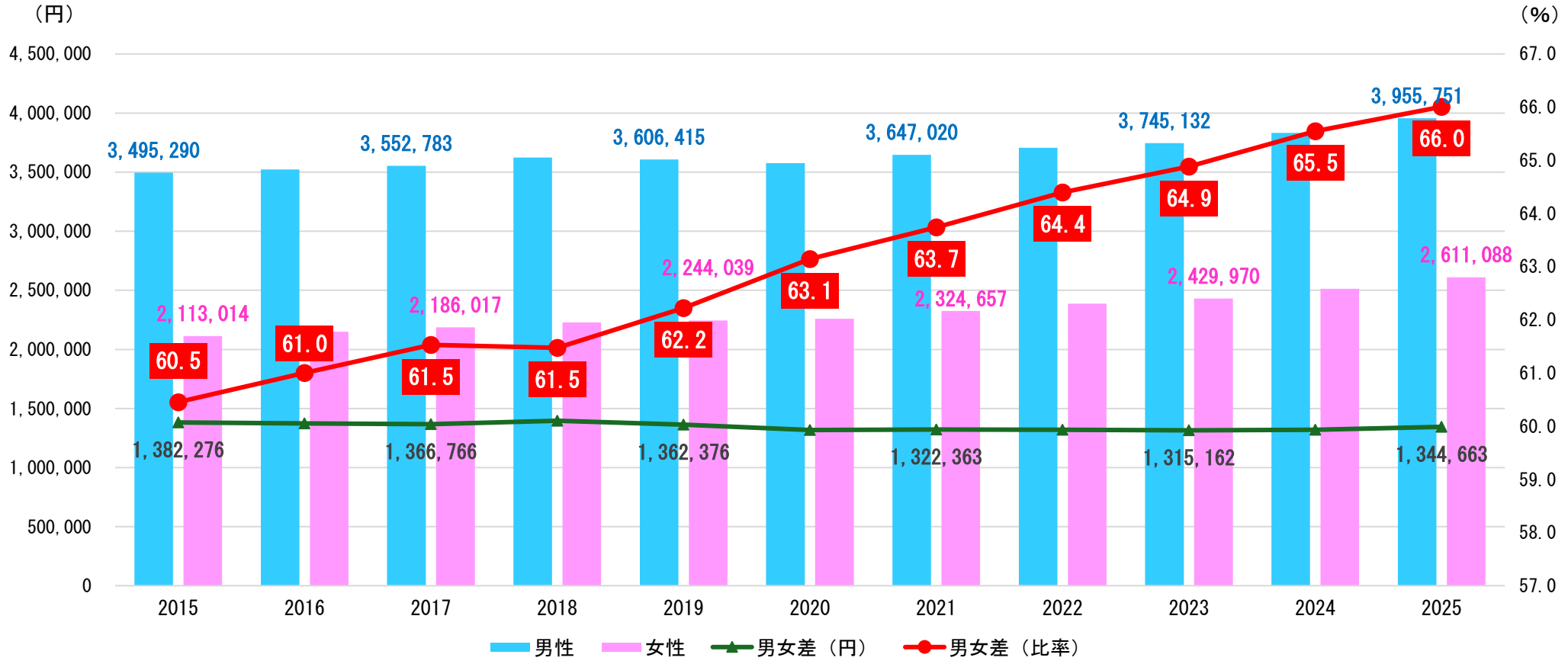


（出典：山形労働局　労働市場月報）

酒田市の現状及び課題

4 男女の収入格差

・男性を100とした場合の女性の平均給与収入
・男女の収入格差は縮小傾向にあるが、依然130万円以上の差がある

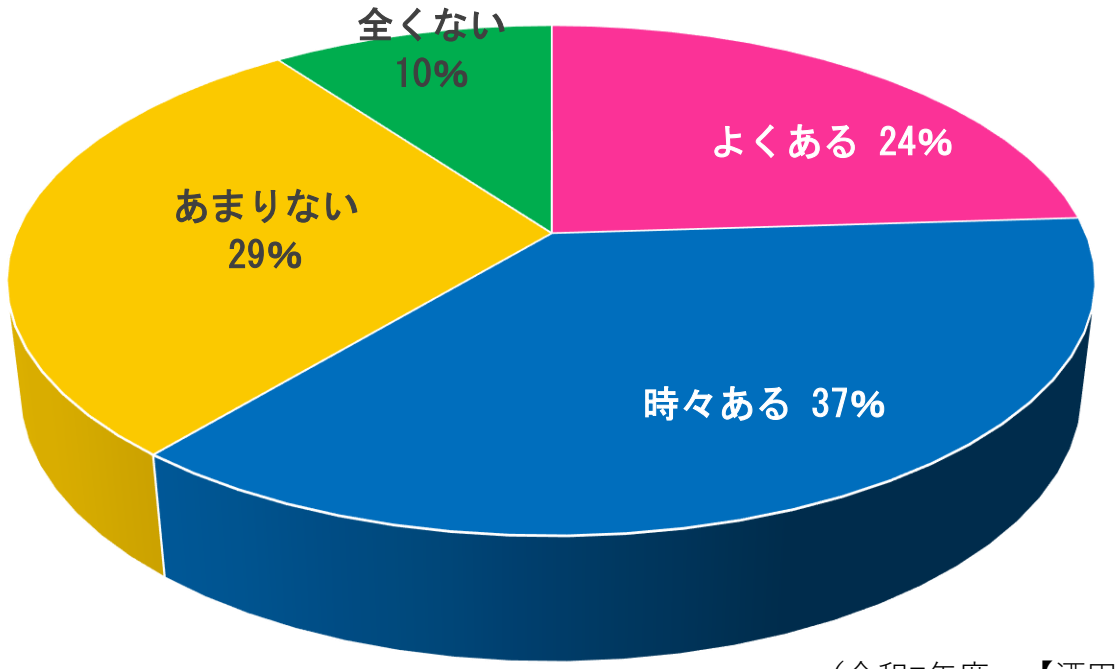


酒田市の現状及び課題

5 アンコンシャス・バイアス

・性別による役割分担意識など無意識の偏見が依然としてあり、
女性の家事負担の集中やキャリア形成の壁となっている

”男性は仕事、女性は家庭を優先すべき”といった考えを、
身の回りで感じたことはありますか



全体の61%が「感じたことがある」と回答
「全くない」と回答した人は10%と低い

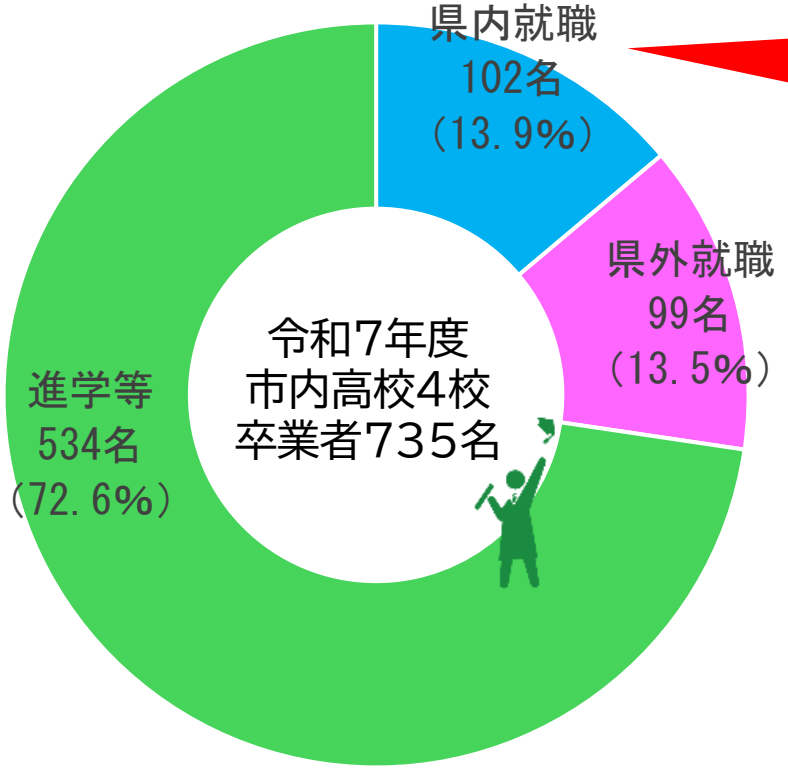
「育児・家事の負担が女性に偏っている」と
いった回答も多かった

（令和7年度　【酒田市】職場における意識及び課題調査より）

酒田市の現状及び課題

6 若者の地元定着

・高等学校卒業後、多くの生徒は進学及び就職により県外へ転出



県内定着率
50.7%

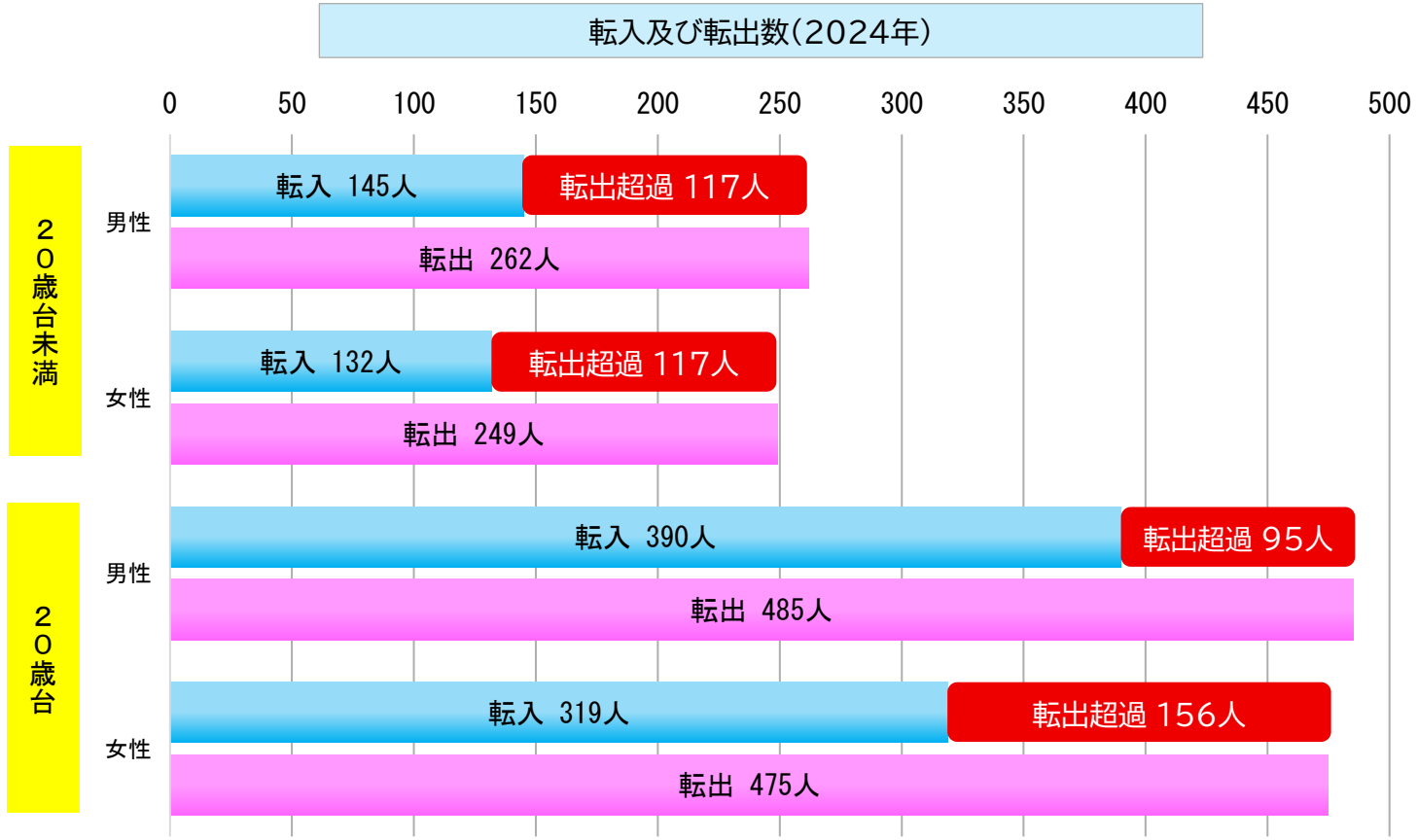
・市内高校卒業者のうち、7割以上が進学
・市内には東北公益文科大学、産業技術短期大学校庄内校、酒田看護専門学校の3校しかなく、多くの学生は進学によって市外に転出する
・就職者のうち、県内就職は50.7%

（出典：SakataDataFile2026）

酒田市の現状及び課題

7 若者の社会増減

・若者の転出超過（特に20歳台女性が顕著）



（出典：総務省　住民基本台帳人口移動報告）

酒田市の現状及び課題

8 働きやすい職場のPR

・「えるぼし認定」の市内認定企業数は同規模自治体で日本一
・一方で働きやすい職場が多いことの周知が不足



Sakata
日本一女性が働きやすいまち宣言に賛同するリーダーの会



2017.10

「日本一女性が働きやすいまち」を目指す宣言

2021.01

日本一女性が働きやすいまち宣言に賛同するリーダーの会を発足

2025.08

地方公共団体として初めて、「サステナグロースカンパニーアワード　パブリックサービス賞」を受賞

2026.10

女性が活躍しています！
2025年認定（2025年度基準） くるみん 子育てサポートしています
ユースエール 0000年度認定

えるぼし	くるみん	ユースエール
11社	6社	11社

市内認定企業数　日本一！！

Sakata
リーダーの会
会員数　210社





若者が酒田市に残る・住みたくなる
そのためには、何が必要？



働きやすい職場を増やして
働く場所として“酒田市”を選んでもらおう

取組名称：若者・女性に選ばれる酒田



令和 7 年度　地域の実情把握

アンケート調査の実施

市民と市内企業を対象に「職場の課題及び意識調査」を実施

ワークショップの開催

3回開催し、イノベーション戦略策定に関する意見を聴取

働く酒田イノベーション戦略　策定

調査及びワークショップの内容を基に令和8年3月策定

若者・女性に選ばれる酒田の
取組内容はこちらからご覧ください





令和 8 年度以降　職場改革の実施

分科会の開催

3分科会ごとに年3回開催
①女性活躍推進　②若者雇用
③若者の地元定着及び回帰
働く酒田イノベーション戦略に基づいて課題解決のための取組みについて検討
取組みの成果について報告及び共有（好事例の水平展開）

全体会の開催

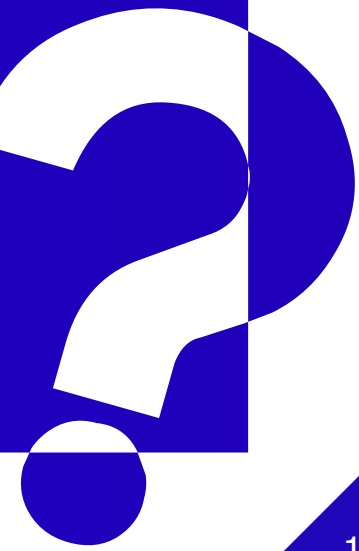
年2回開催
各分科会における取組み内容及び成果の共有
セミナー等の開催

取組優良企業の表彰

各分科会おいて優良な取組みを行った企業を選出し、全体会で表彰

なぜ

地域の実情把握に1年をかけたのか



企業　市民　若者

働いている人　　これから働く人

それぞれに抱える意識・課題を
把握しなければ

働きやすい職場は増えない

アンケート調査の実施





職場における課題及び意識調査

1 実施目的	令和8年度以降の取組みを実施するための、実情把握
2 調査期間	令和7年8月1日（金曜）から9月30日（火曜）まで
3 調査対象	（1）本市に住所を有している事業者 （2）本市にお住まいの方　又は　本市の企業（事業所）に勤務されている方
4 回答方法	インターネット又は用紙による回答（用紙設置場所：本庁舎ほか5か所）
5 回答件数	（1）本市に住所を有している事業者　　33件 （2）本市にお住まいの方　又は　本市の企業（事業所）に勤務されている方　　71件



実施スケジュール

5月	調査票作成作業
6月	ファシリテーター打合せ
7月	ファシリテーター打合せ
8月	調査実施
9月	
10月	調査結果集計
11月	調査結果公表


職場における課題及び意識調査

調査票は2種類（①企業用　②市民用）
それぞれが抱える意識・課題は違う

若者・女性に選ばれる酒田
ファシリテーター

合同会社work life shift
代表　**伊藤 麻衣子**　氏

鶴岡市議会議員
合同会社work life shift 代表
ワーク・ライフ・バランス
コンサルタント



地域の実情を知っている
ファシリテーター

出てくる 出てくる

企業と市民が感じていることの乖離

自社は働きやすい職場だ

女性は管理職になりたがらない

小さい子供がいる女性に責任ある仕事は負担になるだろう

アンコンシャス・バイアスはない



乖離

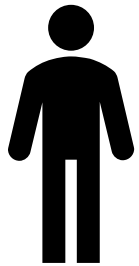
給与が低い

人事評価が不透明

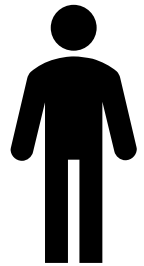
男性は仕事、女性は家庭を優先すべきといった考えを感じたことがある

柔軟な働き方が欲しい

もっと女性管理職が増えるべき



企業側



市民(働く)側



一番の問題は……
皆が他人事と捉えていること！！

何度、周知しても　色々な方法で周知しても
調査の回答数は、全く伸びませんでした

誰かが　いつか　何かの方法で変えてくれる
→→ **外野から当事者へ　変わらなきゃ**



3 ワークショップの開催





若者や女性が働きやすい職場を考えるワークショップ

1 第１回　令和7年11月29日（土曜）

酒田市の現状、これまでの取組み等説明

ワーク：若者・女性が働きやすい職場とは
　　そんな職場が増えたらどういった社会になるか

2 第２回　令和8年1月24日（土曜）

働く酒田イノベーション戦略（案）の説明
酒田市が目指すべき姿とは

ワーク：戦略に追加したいもの

3 第３回　令和8年3月14日（土曜）

働く酒田イノベーション戦略（案）の説明（第2回の意見反映後）
今後の取組みについて説明

ワーク：戦略に追加したいもの



ワークショップ参加者
地元の企業、市民、大学生、高校生、商工会議所、酒田市人事課

企業、市民、学生が一緒に
ワークショップを開催

戦略を一緒に作っている一体感

自分たちの意見がこれからの戦略になる
→→ **外野から当事者へ　変わった**



働く酒田
イノベーション戦略の策定







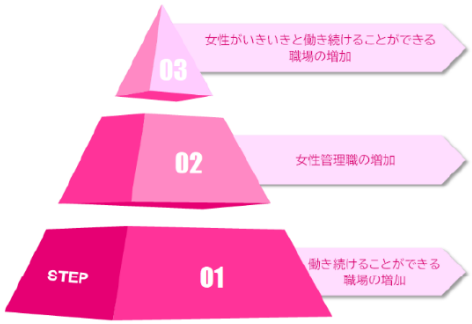
働く酒田イノベーション戦略の特徴

1 市内企業が働きやすい職場となるための参考書

単なる戦略ではなく、企業が取り組みやすいよう参考書として作成
既に職場改革が済んでいる項目、これから取り組むべき項目がひと目でわかるチェックリスト形式

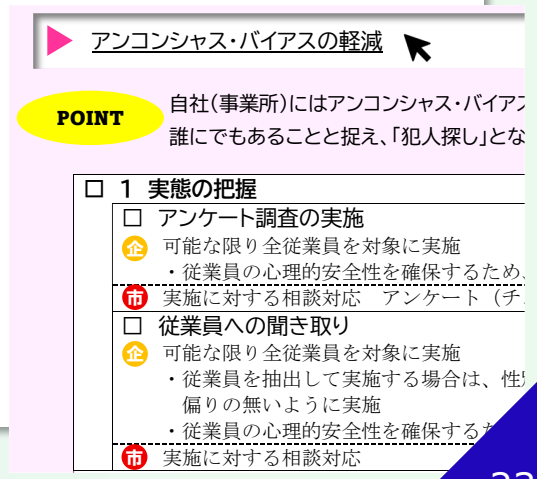
2 取り組むべき課題は３つ

課題を①女性活躍推進、②若者雇用、③若者の地元定着及び回帰の3つに分けて、課題ごとに3段階の目標及び達成項目を設定



3 企業と市が取り組む内容を明記

働きやすい職場づくりを企業側のみの取組みとせず、市も一緒に伴走支援するため、それぞれが取り組む項目を明記



酒田市が目指すべき姿及び段階別の達成項目

1 女性活躍推進



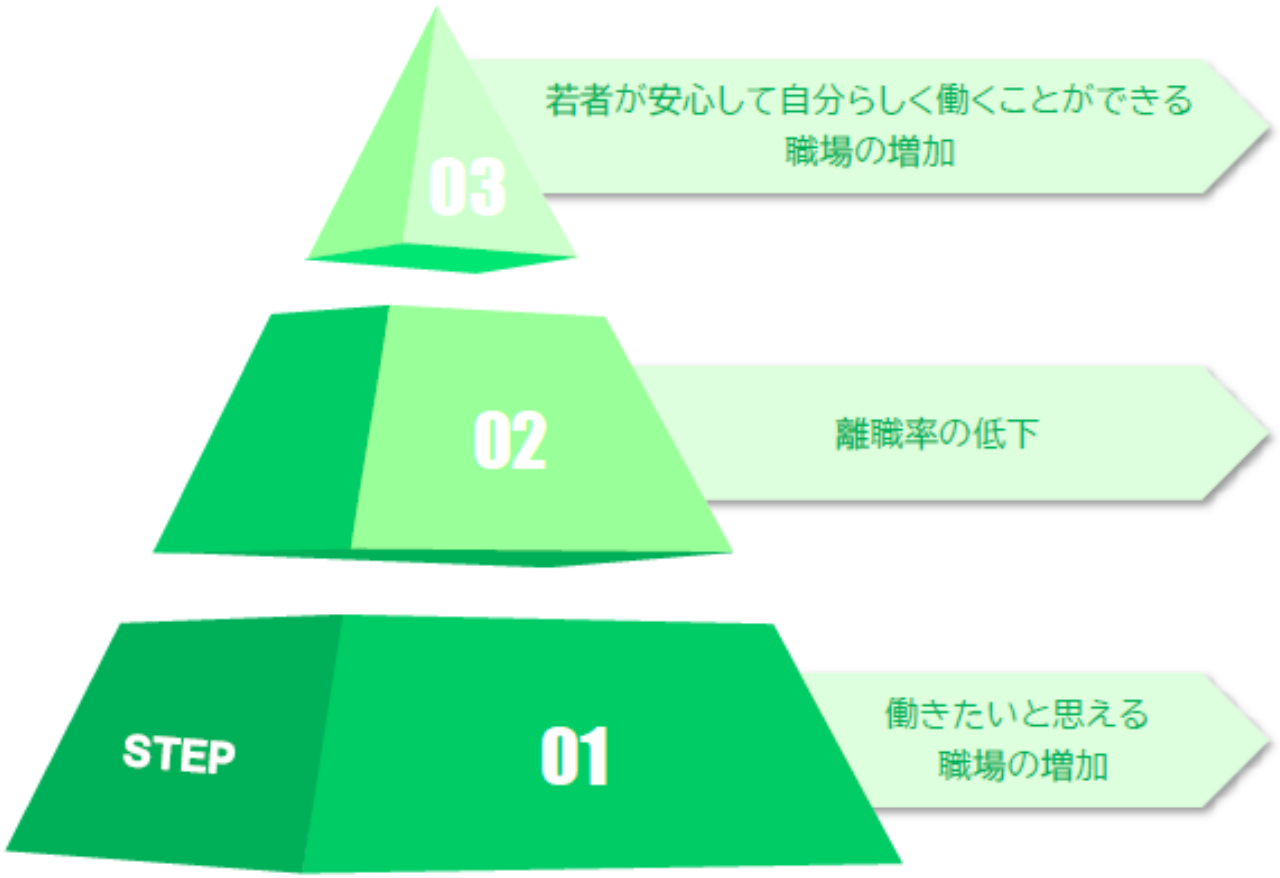
・男女賃金格差の解消

・多様なロールモデルの提示
・透明性が高く公正な評価制度
・女性管理職としての研修制度の充実

・アンコンシャス・バイアスの軽減
・ジェンダーギャップの解消
・ライフステージに合わせた柔軟な働き方
　及び休暇制度の充実
・女性が働きやすい職場環境の整備

酒田市が目指すべき姿及び段階別の達成項目

2 若者雇用



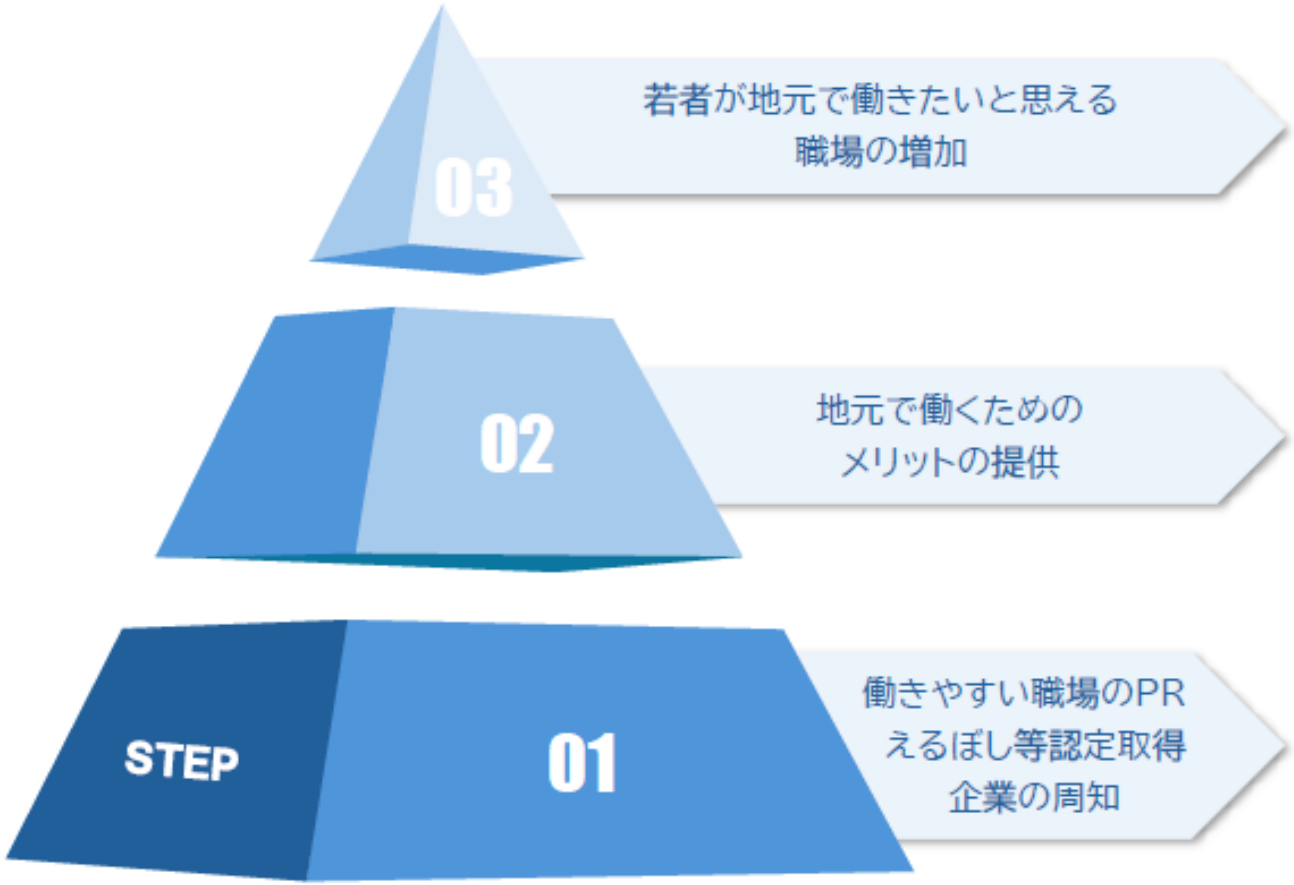
・若者の転出者数の減少

・就職前マッチングの実施及び充実
・フレキシブルな働き方の提供
・副業又は兼業制度の創設
・育児休業・休暇の取得率増加

・給与収入額及び休日の増加
・時間外勤務の抑制　・ハラスメントの撲滅
・コミュニケーションが取りやすい職場風土の醸成
・多様な研修制度及び休暇制度の創設
・清潔な職場環境の整備

酒田市が目指すべき姿及び段階別の達成項目

3 若者の地元定着及び回帰



- 若者の転入者数の増加
- 県内就職率の向上

- 多様な働き方や働く場の提供
- 住宅手当など、福利厚生の充実
- 魅力的な企業の増加及び周知
- 伝わりやすい企業理念の提示

- 市内企業PR及び低年齢層から始める
  タッチポイントの増加
- 認定取得企業数の増加及び周知
- 地元高校及び大学等との連携

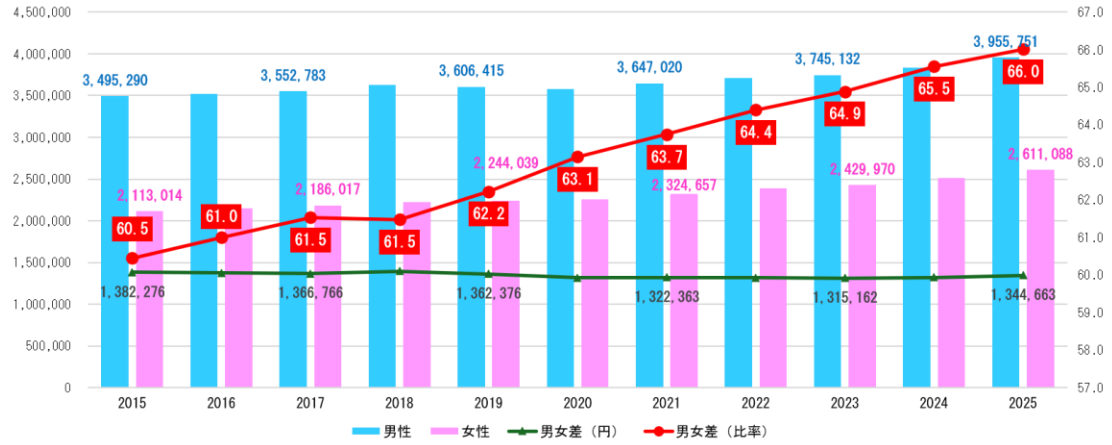
数値目標

1 社会動態の均衡（±０）



現在マイナスとなっている
若者（20歳台）の
社会動態を均衡させる

2 男女の平均給与収入格差の縮小



男性を100とした場合の
女性の平均給与収入額の割合に
ついて**70以上**を目指す

これまでの成果





みんなで作り上げた戦略だからこそ
取組みたくなる

市が企業、市民、生徒、学生と
一緒に作り上げた戦略だからこそ
市も一緒に取り組むという
PRが出来る

その結果
令和8年度取組参加企業は
20社！

働きやすい職場づくりに
意欲のある企業が参加してくれました
高校生も参加しています

若者・女性に選ばれる酒田

酒田市は若者や女性から働く場所として
「酒田市」を選んでいただけるよう、
働きやすい職場が増える取組みを
行っています

皆さんがこれから就職する際、
自分らしくいきいきと働けるよう、
働きやすい職場を増やしていきます

ぜひ「酒田市」で働くことを
考えてみてください

酒田市商工港湾課
☎ 0234-26-5757
✉ koyou@city.sakata.lg.jp

若者・女性に選ばれる酒田 Sakata City

高校生、市内外の大学生に参加企業を紹介するチラシを配布
市が積極的に参加企業を紹介









ご清聴ありがとうございました











山形県酒田市